

※一般質問の内容は、議員自身が6月定例会議事録に基づき記述しています。



なかの けんたろう
中野 健太郎
(明和)

ビジネスコネクットの拡充と産業振興について

問 令和4年度の相談実績は。

部長 ビジネスコネクットふじのみやは富士宮市、富士宮商工会議所、芝川商工会及び富士宮信用金庫の4者による相談窓口。4年度は4275件の相談があり、相談内容の一番多い補助金については、申請に対する採択率が平均以上、創業率は全国平均を上回っている。

問 コーディネーターを増員し、機能の拡充を図ることはできないか。

部長 今後の相談状況を見て、必要な時期に検討したい。事業承継の相談も月に2、3件あることからマッチングの仕組みも検討したい。

要望 新型コロナ対応の支援制度のゼロゼロ融資が返済開始期間を迎え、行き詰まる企業が増えることも予想される。金融機関との連携を

密にして、倒産を出来る限り抑えられるサポートを頑張ってもらいたい。

交流センターの将来展望について

問 (仮称)富士根交流センターの進捗状況と、検討されている機能は。

部長 6年度から造成工事、建設工事に着手し、7年11月オープンを予定。約130台の駐車場、児童クラブを併設し、公園や大型防災倉庫も整備する予定。

問 南部公民館は建築後40年以上が経過した。(仮称)南部交流センター建設を念頭に公共施設を再編すべきと考えるがいかがか。

部長 南部公民館は当面は現状のまま使用していく予定。ただ、南部地域には新たな交流拠点となる施設が必要。広大な土地が必要であり、時間もかかると考えるが、整備に向けて一歩一歩進めていきたい。

市長 時代の要請、南部地域の交流活動が盛んになったとか、広い土地が確保できたとか諸条件が整ってくれば、前倒しもあるのではないかと考えている。



つじむら たける
辻村 岳瑠
(明和)

認知症に対する社会的処方箋について

問 認知症の特効薬は存在しない。医療面だけに頼るのは限界がある。地域資源を社会的処方箋として施策に取り入れることについて。

部長 認知症における社会的処方箋と考える資源も多様にあり、地域の寄り合い処も社会的処方箋の一つであると考えている。

カーブミラー設置制限による通学路の安全性

問 通学路ではあるが、カーブミラーの必要性について総意とならず、設置に至らない時の市の対応を伺う。

教育長 交通安全リーダーと語る会では、カーブミラーの設置について提案されることもあるが、要望してもすぐに設置するわけではない。

部長 通学路の安全性の確保は市の役割である。交差点を通行する運転手さんへの注意を促

す交差点マーク。「交差点注意」「速度落とせ」などの路面標示を行う。

合同会社富士山朝霧バイオマスへの自動車メーカースズキ株式会社の出資は、悩まされてきた、ふん尿処理問題を解決するチャンス

問 官民連携の今後の取組を伺う。

市長 スズキ自動車の出資はありがたい。液肥の課題を解決しない限り前には進まない。

部長 液肥処理の課題が残る。

部長 液肥の課題を踏まえつつ、再生可能エネルギーの導入推進に取り組む。

問 地域循環共生圏は自立分散型の社会形成とある。さまざまな再生可能エネルギーがあるが、バイオマス発電は自立分散型の仕組みができるのではないかと考えている。

部長 バイオマス発電には大きな可能性があると考えている。